静岡新聞で学ぼう

Newspaper in Education

静岡新聞

核心核論

不漁続きの海

資源管理と環境保全を

昨年末、デパートの食品売り場で見かけたイクラは100グラム2千円という高値だった。隣にあるカズノコが同800円だから驚きだ。昨年の秋サケが極度の不漁だった影響で、地球温暖化による海水温上昇との関連を指摘する研究者は多い。

年明けには例年のように東京・築地の初競りで体重405キロの青森県大間産クロマグロが、最高額の36450万円（1キロ当たり9万円）で競り落とされたことが話題になった。

だが、これだけ大きい成魚のクロマグロは極めて少なく、漁獲の多くはゼロ歳や1歳の幼魚だ。産卵能力がある親魚の量は漁業が本格化する前の5％足らずになり、資源は「低レベルで横ばい」と評価されている。サケと同様に昨年話題になったサンマの不漁も温暖化との関連が指摘されている。イカナゴ、イカ類、トラフグ、ホッケ、スケトウダラなども資源状況は悪く、多くの原因は取りすぎだ。

落語の寿限無にも出てくる海砂利水魚という言葉がある。海の砂利と水の中の魚は、数に限りがなく、尽きることがないという意味だが、当然ながら取りすぎれば魚は減ってしまう。乱獲に地球温暖化の影響が加わり、プラスチックごみの汚染が追い打ちを掛けている。2050年には海に漂うプラスチックごみの重さが、海の魚の総量より多くなると試算されている。

今のまま乱獲が進めば、将来、食べられるシーフードはクラゲだけになってしまうと指摘する研究者もいる。20年、30年後の正月料理が寂しいものになってしまわないように資源管理と海の環境保全に力を入れねばならない。「安いシーフードをたくさん食べたい」という欲望もいいかげんにしなければならないだろう。

2018年
1月9日　朝刊

①去年の秋サケが極度の不漁だったのは、何が影響したと考えられますか。

[　　]

②サケ以外に不漁が心配な魚を書きましょう。

[　　]

③何年になると、海に漂うプラスチックごみの重さが、海の魚の総量より多くなると試算されましたか。

[　　]

年　　組　　名前

（小学校高学年・中学校・高校　社会・総合）